

第 2 回館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和58年6月21日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 神田 守隆	2番 田沢 勝信
3番 山中金治郎	4番 日下 君敏
5番 川名 正二	6番 生稻 隆
7番 榎本 春光	8番 小宮 利夫
9番 福原 勤	10番 横溝 功
11番 飯田 義男	12番 石井 謀
13番 石井 昌治	14番 伊藤幸太郎
15番 渡辺 昭夫	16番 松下 正己
17番 近藤 好雄	19番 黒川 平治
20番 石井 武敏	21番 吉田勇治郎
22番 林 豊	23番 伊賀 多朗
24番 流山源次郎	25番 五十嵐 昇
26番 石井 正	27番 安西 益男
28番 安澤 徳順	

1 欠席議員 1名

18番 和田 一郎

1 出席説明員

第1号から選挙管理委員会委員長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く。

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和58年6月21日午前10時開議

日程第1 { 議案第29号 茂原市を千葉県市町村公平委員会の共同設置
団体に加えること及び小見川町外2ヶ町伝染
病予防組合を共同設置団体から除くこと並び
に千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一
部を改正する規約の制定に関する協議につい

て

議案第30号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する
条例の制定について

議案第31号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁
償に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

日程第2 議案第32号 昭和58年度館山市一般会計補正予算(第1
号)

日程第3 請願第2号 米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地化に反
対する意見書の提出をもとめる請願書

開 議 午前10時2分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数27名、これより第2回市議会
定例会第3日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第1、議案第29号乃至議案第31号の各議
案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長(石井 正君) これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1番議員神田守隆君登壇)

○1番(神田守隆君) 議案第30号国民健康保険税条例の一部を改正す
る条例について御質問いたします。

国保税については課税方式を市民税所得割方式からただし書き方式に変
更するとの内容を含んだこの一部改正であります。この国保税の最大の
問題は、これまでもたびたび指摘してまいりましたが、税額そのものが大
変に多いことにあります。課税方式を変えても市民が全体として負担する

税額に変わりはありません。本年度は57年度に1億3600万円余の剰余金が見込めるため、これを財源として6000万円が本年度の税の軽減分に充てられていますが、その結果1世帯当たりの税額が9万7114円と対前年度5928円安くなっています。しかし、それでも国保税は大変に重い税金となっていることに変わりありません。

大幅な決算剰余金は、結果的に市民が見込みに比べて健康に留意したために医者にかからずに済んだと考えられます。まず決算剰余金は減税にこそ充てるべきであると考えます。57年度1億3600万円のうち税の軽減に充てるのは6000万円ではありますが、この6000万円を減税に充てたその根拠はどういうことなのかお聞かせを願いたいと思います。

また、基金として5610万4000円を繰り入れておりますが、この結果基金は2億1000万円に上ると思われます。これは療養給付費の約2ヵ月分に相当すると思われますが、基金の残高のあり方についてどのようにお考えなのか、今後とも基金残高をふやしていく考えなのかどうか、合わせてお聞かせを願いたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

財政調整基金の繰入額についてでございますが、昭和57年度国民健康保険特別会計は1億3640万余円の歳計剰余金が見込まれますが、このうち2030万円は国庫支出金の返還に充てなければなりません。したがって、実質の剰余金は1億1610万円でございます。この1億1610万円のうちおよそ2分の1の6000万円を税の軽減に充て、残り5610万余円を財政調整基金に積み立てたいと考えております。

当初予算に計上いたしました2000万円に加えて今回さらに4000万円を税の軽減に充当いたしました結果、57年度本算定時に比べて1世帯当たり6153円、当初予算対比では1世帯当たり5928円、それぞれ軽減になっております。

来年度以降、国庫負担金の水準引き下げや、老人保健拠出金の精算増が見込まれますので、これらに対処するためにもこの程度は積み立てたいと考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○1番(神田守隆君) およそ剰余金の2分の1を税の軽減に充てるというお話はわかったわけでありますが、それにしましても国保の医療費の増大が見込まれるというようなお話がありましたけれども、従来、この基金残高のあり方については、大体2ヵ月相当分というようなお考えが示されていたやに思うんですが、大体いま療養給付費が58年度の予算で見ますと14億というようなことで、大体2ヵ月といたしますと、2億なにがしというようなところで大体その療養給付費が見込めるんじゃないか。

したがって、この基金残高が2億円をこえるというようなことになった現時点で、今後この基金残高のあり方についてはやはり従来のように2分の1繰り入れるというような形でやっていくということについても、一定程度当初の目的を達する段階に来ているんじゃないだろうか、こういうふうに思うんですけれども、この点についていかがお考えか。来年度のことというのはなかなかわかりませんが、基金残高の基本的なあり方としてどう考えているのか。こういうことでお聞かせを願いたいわけでありま

す。

○民生部長(鈴木 力君) お答え申し上げます。

いままで財政調整基金の方に大体御指摘のように2ヵ月分の診療報酬相当分を積み立てる、こういう考え方に立っておったわけでございます。

現在におきましては、月に大体1億4300万で、これが療養給付費の保険者負担ということでございまして、したがってふた月分と申しますと2億8600万円になろうかと思いますが、基金を設定いたしました当時——54年度でございましたけれども、当時は非常に医療費というものが年々急激に増高しておったわけでございまして、また一方医療需要に応じまして被保険者の保険税負担も同じように年々増高の一途をたどっておったわけでございます。このような状態でございましたので、また将来にわたりましてもこういう傾向が続く、こういうことが予測されておったわけでございますので、これから国保財政の長期的な健全化を保つためにはどうしても基金を設置しなければならない、こういう考え方のもとに基金を設置したわけでございます。

本年の2月から老人医療につきましては老人保健法の方に移行されまし

て、それによって国保財政というものはかなり安定的な見方ができるわけ
でございまして、いままでの医療費の増高というものはおおむね老人医療
の分が急激に上がっておった、そういうことでございますが、これは歳出
面ではやや医療費も鈍化の上昇の傾向になったということがいえるわけで
ございますが、一方歳入面におきましては、臨調答申の中でもいわゆる国
民健康保険に対する国庫負担というものを見直すということでございまし
て、現在これは確定しておりませんけれども、たとえば事務費が現行全額
国庫負担がたてまえでございますけれども、これを2分の1にカットしよ
うという一つの考え方もあります。また、療養給付費につきましては、従
来40%が負担率でございましたが、これを35%にさらに5%カットし
よう、こういう動きもあるわけでございます。それから、なお老人保健法
への拠出金でございますが、これにつきましても老人保健法によりまして
60年度に大体館山市の場合3200万円の増が見込まれるわけでござい
まして、これがやはり税負担になる、こういうようなこともございますの
で、これからはむしろ歳出面よりも歳入面におきましてやはり財源調整と
いうものを行う必要があるわけでございまして、当面はそういう考え方に
立ちましてこの財政調整基金の処分の運用を図ってまいりたい、このよう
に考えております。

◎1番(神田守隆君) 月1億4000万というのはどういう根拠から出
したもののか。私は、年度の予算から出した数字で話をしたわけですが
も、この数字とは違う数字をお使いのようなので、何の数字なのか。予算
の数字からいくと大体2億3000万——2カ月相当分というのは。

そうするといまお話を伺いますと、大変大きな問題を含んでいたように
思うんです。政府からいろいろと医療費の40%負担をカットするという
ような問題が、5%カットの問題が大変大きな問題として論議されたのが
昨年、一昨年ということであったかと思うんですが、この財源調整という
ようなことは、これまでいわれていた問題は、大体2カ月間というのは給
付費の期間の関係——何と説明したらいいのか、よくわかりませんが
も、大体支払いと実際の費用の発生の期間、その分が2カ月間支払いがず
れるからその分について大体見込みとして作っていきたいんだという御説
明の仕方だったわけですが、大分ニュアンスが違って、こうした政府の一

—いまの国保に対する政府の負担を切り下げていくような、そうしたものを含めて財源調整をしなければならぬというのがいまのお考え、大変大きな問題を含んでいると思うんです。そういうことまで含めて考えるとすれば、これは率直な話幾ら基金があってもかなわないんじゃないかなろうかというふうに思うんです。こういう議論だと基金が際限なくふくらむんじゃないかという危惧を感じるわけなんです。この前の2ヵ月というような考え方はとっばらったというふうに解釈してよろしいのか。その点について改めてお聞かせを願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 現在1ヵ月分の診療報酬相当額というのは、大体1ヵ月の診療報酬が1億300万——老人医療分を除きまして、それに老人保健法によります拠出金、これが1ヵ月4000万、したがって1ヵ月1億4300万、ふた月分2億8600万、こういう数字になるかと思います。

それから、なおこの基金の運用でございすけれども、先ほど申し上げましたとおり、歳出面におきましては医療費の急激な増高というものがここへきましてある程度鈍化してきたということが確かに言えると思います。そういう面ではこの基金についてはこれからも医療費のさらに動向はもちろんでございすが、あるいは被保険者の税負担の増高、国庫負担金の増高、なお、繰越金の処分の問題を合わせ考えまして、基金の運用というものを図っていききたいということでございまして、ある程度の財政的な支出の安定ということが見られますので、これからはこの基金をひとつ有効に処分と申しますか、そういうことを合わせ考えながら運用を図っていききたい、このように考えている次第でございす。

○1番（神田守隆君） これで終わりますけれども、今の答弁で、2ヵ月とこれまで言っていた話はどういうふうに——効果的な運用を図るのはわかるんですけれども、これまで2ヵ月と言っていたことはとっばらった考えに立つのか。2ヵ月というのはこれまでどおり考えていいのか。

ただし、その2ヵ月という問題については、いま老人保健拠出金を含めてその計算をしているということはわかりましたけれども、そのことの是非についての論議はあろうかと思います。しかしながら、従来から言っていた2ヵ月見当というようなお話は一体どうなのか、その点について市長

さんの判断はいかがなのか。

○市長（半澤良一君） 従来から2カ月ということ——財政調整基金2カ月ということを目標に進んできたわけですが、2カ月ということも特に根拠があるわけではございませんで、それぞれの国保の会計の内容によって違うと思いますけれども、一応国や県の指導が2カ月程度を目安に下さい、そういう指導があったわけでございます。

本来は、財政調整基金は御承知のように年度間の財政収支のアンバランスをなくすための調整基金でございますので、それぞれの国保会計の内容によって違うものだと思いますけれども、ただいま民生部長が御説明申し上げましたような、医療費が急激に増高するというようなこともだんだんなくなってまいったというような見通しを考えますと、大体そろそろこの程度あればいいんじゃないか。これでいいということは申し上げられませんが、今後この国保会計の動きを見ながら決めていきたいと思っておりますけれども、2カ月以上を積み立てる必要はないというように現在の段階では考えております。

○1番（神田守隆君） 終わります。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第29号乃至議案第31号の各議案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第2、議案第32号昭和58年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

これより質疑に入ります。

通告はありませんでした。御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第32号昭和58年度館山市一般会計補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第3、請願第2号米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地化に反対する意見書の提出をもとめる請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地化に反対する意見書の提出をもとめる請願書につきまして御紹介をさせていただきます。

この請願は、去る3月議会に提出され、継続審議とされたものであります。ぜひとも慎重な審議のうち今議会において採択されるようまず心よりお願いをするものであります。

昨日の市長のこの問題についての御答弁の中にもありましたように、この問題は館山市民こそって反対という性格の問題ではなかろうかと思えます。

6月10日付の千葉日報によりますと、館山基地が訓練候補地として有力との記事が載っています。

また、この問題は、基地の提供そのものは日米安保条約に基づく条約上の義務であり、地元市町村にはこれを拒否する何らの法的な裏付けがござ

いません。それだけに訓練候補地に挙げられないよう、それ以前の対処が重要であると考えます。候補地に挙げられ、政府が地元の意向の打診を求めてきたときは、すでに政府の意向は固まったと見なければならぬと思うからであります。

この問題は、今年度に調査費が計上されていることは請願の趣旨にあるとおりであります。8月ごろには日米安保協議が行われる予定で、この中で日本側から訓練基地の候補地の名が具体的に出されるのではないかと、の危惧もあります。

館山市議会の名において館山基地を米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地にさせぬよう、この請願書をぜひとも採択をされるよう強く求めまして、請願の紹介といたします。

満場の皆さま方の御賛同を賜りますよう心よりお願い申し上げまして、私の紹介とさせていただきます。

○議長（石井 正君） 以上で説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては総務委員会に付託をいたします。

延 会 午前10時26分

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明22日は委員会での議案審査のため休会、次会は6月23日午前10時開会といたします。その議事は議案第29号乃至議案第32号等に係る委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決、追加議案の審議といたします。

● 本日の会議に付した事件

1 議案第29号乃至議案第32号

1 請願第2号